



「定番」コード進行から オリジナル曲を作ろう!

オリジナル楽曲を創作するなんてハードルが高くて…と、気持ちはあっても一歩踏み出せないでいる人も多いのではないのでしょうか。しかし、ポピュラーミュージックの楽曲はコード進行をつなげて成り立っているといっても過言ではなく、ジャンルや年代が違う楽曲同士がまったく同じコード進行だった、なんて話はよくあること。今回は、よく使われている「定番」コード進行の代表例を紹介しますので、初めての人も、すでに何曲かレパートリーがあるバンドも、テンプレとして今後の曲作りの参考にしてください！

コード進行先行の曲作り

オリジナル楽曲を作るには、歌詞、メロディ、コード進行、各パートのフレーズなど、様々なことを創作しなければいけません。作る順番は特に決まっていなく、人それぞれで得意なやり方があったり、楽曲ごとに違う場合もあります。しかし、コード進行に重要性があるポピュラーミュージックでは、まずコード進行を作ってしまうという方法も一般的です。

コード進行とは、それぞれ「コードネーム」が付いた和音を楽曲の流れに沿って並べたものです。本来はメロディに対しての伴奏として存在する和音(コード)ですが、楽曲創作段階ではコー

ド進行からイメージを膨らませてメロディや歌詞を作るという方法も間違いではありません。

ポピュラーミュージックの楽曲、特に日本のロック／ポップスではコードの響きが重要視される傾向があり、コード進行が楽曲のキャラクターを決めてしまうことも少なくありません。

今回紹介するコード進行は、昔からよく使われている有名なものから、近年よく使われている流行のものまで、いわゆる「定番」ばかりです。コード進行には著作権はありません。同じコード進行でも違うメロディが乗っていれば、それは別な楽曲となります。土台となる作文などのテンプレートや定番料理のレシピを借りちゃうつもりで取り組んでみてください。

コードは便利グッズ

そもそも、コードネームはあまり楽譜を読めないミュージシャンのために開発された便利グッズです。楽譜に書かれた音符を読まなくても(書かなくても)、コードネームで意思疎通ができればお互い楽だ、というわけです。

軽音楽部では、既存曲をコピーする時に市販のバンドスコアを購入することも多いと思いますが、コードネームがある程度理解できていればコピーも演奏も格段に楽になります。まずは、コードネームのことを少し勉強しましょう！



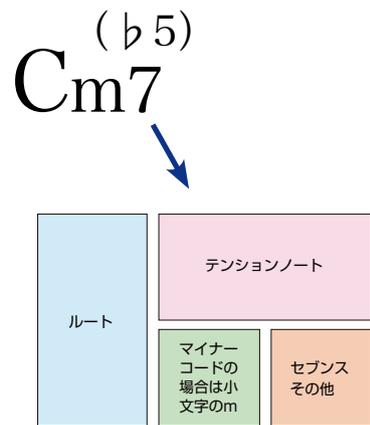
基礎的な音楽理論を知っておこう

簡単な便利グッズとはいえ、ある程度音楽理論に関する知識がないと、応用が効かなかったり自由度が狭くなってしまいます。基礎的な音楽理論を解説しておくので、ぜんぜんわかりません！という人もしっかり読んで理解していきましょう。また、今回紹介する楽曲の解説や譜面は、わかりやすいようにすべてCメジャーキー（またはAマイナーキー）にしています。実際に作曲する時はボーカリストの声域などに合わせて移調してください。

コードネームの構造

いくつかの音が同時に発音されたものを和音といいます。正確には「高さの異なる2つ以上の音の集まり」とされています。そして、その和音に名前を付けて記号化したものが「コードネーム」です。略して「コード」とも呼ばれます。コードは右図のような構造になっています。ジャズやロックといった、いわゆるポピュ

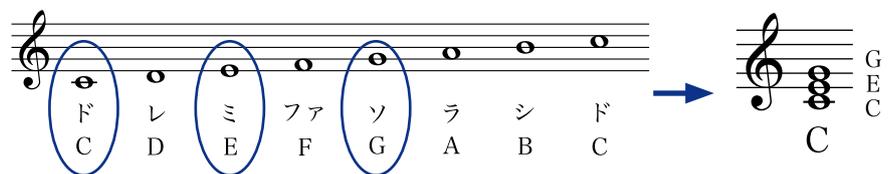
ラーミュージック自体や、コードネーム表記という考え方はアメリカやイギリスなどの英語圏で生まれ広がっていったため、音名はドから順にC、D、E…と、英語での読みと表記になります。その他、複雑な構成の和音でなると、数字や言葉による音の指示をするコードネームもあります。



▲コードネーム表記の構造

トライアド

コードの中で最も基礎的なものが「トライアド」です。トライとは3つという意味で、3つの異なる音が法則にたがって集まった和音のことです。日本語では「三和音」「3声和音」と呼ばれ、すべての和音の原形となります。トライアドには「メジャートライアド」と「マイナートライアド」があり、両者を比べると真ん中の音がbしているかどうかの違いになります。



▲Cメジャートライアド。Cメジャースケールの1（ルート）、3、5度を重ねたコード。表記はルートのみ



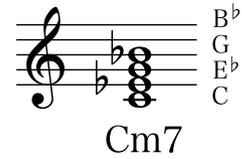
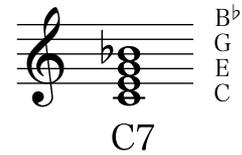
▲Cマイナートライアド。Cマイナースケールの1（ルート）、3、5度を重ねたコード。表記はルートに小文字の「m」を併記する

コードネームを勉強し始めた頃はトライアドだけ理解して演奏できていれば十分ですが、少し高度な話もしておきます。余裕ができたなら振り返ってみてください。

3声(音)でできている和音トライアドに「セブンス」という音を足して4声の和音にしたものが「セブンスコード」です。

ここまでが楽典的な和音の

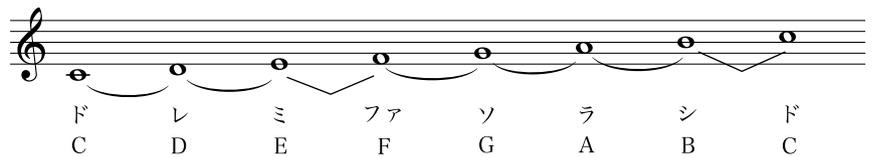
基礎ですが、注意しなければならないのは、セブンスはメジャースケールの7度の音をフラットさせた音だということです。これはマイナースケールの7度の音でもあり、マイナートライアドにも同じ音が加わります。



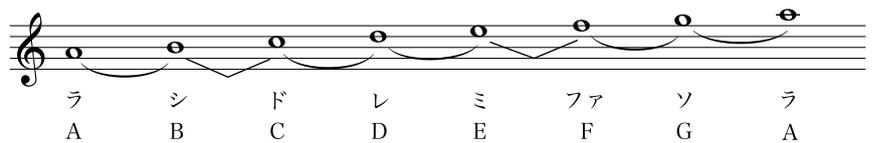
▲Cセブンス(上)と、Cマイナーセブンス(下)。どちらもトライアドにセブンス(b7度)を重ねたコード。表記はトライアドに数字の「7」を併記する

私たちが聴いたり演奏したりしているポピュラーミュージックは、「ダイアトニックスケール」が基本となっています。これはクラシックと同じで、1オクターブ12音の中から法則に従って選ばれた7つの音からできています。7つの音はそれぞれ1度、2度、3度と数字で呼ばれ、スケールの起音となる1度は「ルート」と呼びます。

ダイアトニックスケールには「メジャースケール」と「マイナースケール」があり、それが楽曲のキー(調)になります。



▲Cメジャースケール。ルート(起点となる音)から全音→全音→半音→全音→全音→全音→半音と離れています



▲Aマイナースケール。CメジャースケールをAから始めたもので、構成音は同じです

1つのダイアトニックスケールの構成音だけで作られたコードを「ダイアトニックコード」といいます。例えばCメジャースケールからできた7つのダイアトニックコードは、Cメジャーキーの楽曲で調性の取れた基礎的なコードとして使うことができます。

7つのコードにはどんなキーにも対応しやすいように番号が付けられています。本来はディグリー（度数）をI、II、III…のようにローマ数字で表記しますが、今回はわかりやすいように1、2、3…と、アラビア数字で記していきます。

7つのダイアトニックコード

の中でも重要な1度のことを「トニック」、5度を「ドミナント」、4度を「サブドミナント」と呼びます。

マイナースケールのダイアトニックコードは「平行調」を元に考えま

す。例えば、AマイナーキーはCメジャーキーと同じダイアトニックコードが使えます（5度のコードはメジャーにすることもあります）。

トニック (1) 2 3 サブドミナント (4) ドミナント (5) 6 7

▲ Aマイナースケール。CメジャースケールをAから始めたもので、構成音は同じです

ドミナントはダイアトニックコードの中で最もトニックへ進みたくなる響きを持っているため、5度から1度への進行がすべてのコード進行の基礎となります。これを「ドミナントモーション」といいます。セブンスを加えた「ドミナントセブンス」からの方がより一層トニックに進行した時の安堵感は大きくなります。

アメリカのシンガーソングライター、ハンク・ウィリアムスの「ジャンバラヤ」という楽曲は、トニックとドミナントだけで構成されています。

楽曲は、トニック、サブドミナ

ント、ドミナントだけでも十分成立します。これら3つのコードを「主要三和音」と呼び、ポピュラーミュージックでは「3（スリー）コード」と呼んでいま

す。クラシックからポピュラーミュージックの元であるブルースでも、3コードは音楽の最もシンプルなコード進行の要素です。

▲ Cメジャーキーのドミナントモーション。すべてのコード進行の基礎となります

▲ Cメジャーキーの主要三和音によるコード進行例。クラシックもポピュラーミュージックもこれが基本

「正統派」で勝負!

循環コード

安定した響きのトニックから始まり、最後はドミナントモーションでトニックに戻るコード進行のことを「循環コード」と呼んでいます。

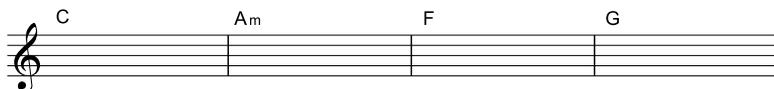
中でも、ダイアトニックコードの「1-6-4-5」と進行する循環コードは、クラシックからアメリカのスタンダードナンバー、日本のポップス/ロックに至るまで多くの楽曲で使われています。Cメジャーキーのコードネームでは「C-Am-F-G」です。

また、「1-6-4-5」を若干変化させた「1-6-2-5」

も定番です。Cキーでは「C-Am-Dm-G」となり、マイナーコードが2つ続いて切なさが深まります。ジャズでは好まれてよく使われていますが、日本のポップスでも嫌味のないキュンとくる感じが昔から定番コード進行として親しまれています。

どちらもダイアトニックコードの効果が発揮された基本のコード進行です。素朴なイメージや穏やかな曲調によく合います。

1-6-4-5



▲ Cメジャーキーの時の1-6-4-5のコード進行

使用楽曲の一例

- ・ Stand By Me (Ben・E・King)
- ・ Diana (Paul Anka)
- ・ キスしてほしい (ザ・ブルーハーツ)
- ・ 夏色 (ゆず)
- ・ YELL (コブクロ)
- ・ 夢の中へ (井上陽水)
- ・ Every Breath You Take (The Police)

1-6-2-5



▲ Cメジャーキーの時の1-6-2-5のコード進行

使用楽曲の一例

- ・ Blue Moon (スタンダードジャズ)
- ・ Bohemian Rhapsody (Queen)
- ・ Last Christmas (Wham !)
- ・ 涙のリクエスト (チェッカーズ)

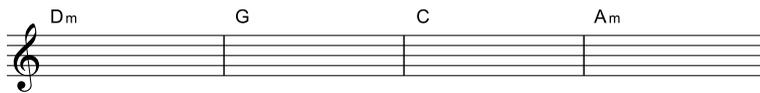
逆循環コード

循環コードの一種で、トニックから始まらない進行のことです。不安定な響きから安定した響きに戻る循環コードに対して、安定した響きから不安定な響きに戻るため哀愁漂う切なげなコード進行になります。

最も多いのは、「1-6-2-5」の3つ目のコードから始

める「2-5-1-6 (Dm-G-C-Am)」や、2つ目からのコードから始める「6-2-5-1 (Am-Dm-G-C)」です。どちらも「ツーファイブワン (2-5-1)」を活かしたコード進行です。

2-5-1-6

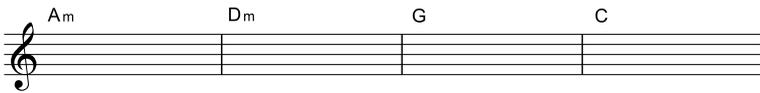


▲ 1-6-2-5 の逆循環「2-5-1-6」。ジャズでは定番の循環コード進行

使用楽曲の一例

- ・卒業写真 (荒井由実)
- ・君がいるだけで (米米クラブ)

6-2-5-1



▲ 1-6-2-5 の逆循環「6-2-5-1」。近年使用率が高い定番コード進行

使用楽曲の一例

- ・感電 (米津弦師)
- ・Dynamite (BTS)



ツーファイブワン

ダイアトニックコードの2度→5度→1度と進行するコード進行です。ジャズなどでは定番で、2度→5度→2度→5度…と1度に戻らずに、どことなく不安定なまま繰り返されることも多くみられます。

2度は4度(サブドミナント)の代理コードなので4声の和音で演奏されることが一般的ですが、ロック/ポップスでは3声での使用もよく登場します。



▲ Cメジャーキーでのコードネーム

「安定感」は無敵！

カノン進行

ドイツの作曲家、ヨハン・パッヘルベルの楽曲「カノン」のコード進行です。度数では「1-5-6-3-4-1-4-5」となり、Cキーでは「C-G-Am-Em-F-C-F-G」です。素直で雑味のない整った印象がありつつ、ドラマチックに展開するところが特徴です。

カノン進行をそのまま使った楽曲もありますが、7つ目のコードを2度(Dm)にしたり、4つ目のコードをトニッ

ク(C)にする、その両方を行うパターンなども多くあります。他にも、2つ目のコードを「オンコード(分数コード)」のG/Bにして、「クリシェ」というコードアレンジにすることも一般的です。

優しい曲調が多そうですが、ギンギンのロックアレンジでも使えます。

Cメジャーキーの時 1-5-6-3-4-1-4-5

The image shows two staves of musical notation. The first staff is in C major and contains four measures with chords C, G, Am, and Em. The second staff is also in C major and contains four measures with chords F, C, F, and G. The notes on the staves are not filled in, only the chord symbols are present above the lines.

▲原曲通りに2拍ずつコードが変わったり、後半部が違うパターンも多い

使用楽曲の一例

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ・チェリー (スピッツ) | ・さくら (森山直太郎) |
| ・翼をください (赤い風船) | ・ハナミズキ (一青窈) |
| ・真夏の果実 (サザンオールスターズ) | ・島唄 (The BOOM) |
| ・負けないで (ZARD) | ・恋するフォーチュンクッキー (AKB48) |
| ・Dragon Night (SEKAI NO OWARI) | ・マリーゴールド (あいみょん) |

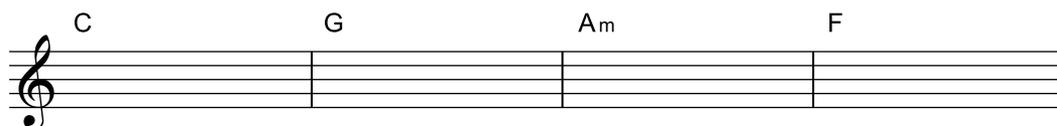
ポップパンク進行①

アメリカやイギリスをはじめとした、海外のロック／ポップスでは大定番なのに、日本ではあまり馴染みのないコード進行なのが「ポップパンク進行」です。「1-5-6」まではカノン進行と同じですが、4つ目のコードは4度になって繰り返されます。Cキーでいうと「C-G-Am-F」

になります。

カノン進行に慣れていると4つ目のコードが唐突に聞こえるかもしれませんが、サブドミナントからトニックへ戻る「変終止」の感じがブルースっぽく、欧米ではウケているのかもしれない。

1-5-6-4



▲海外では大定番のコード進行。昔から多くの楽曲に使われています

使用楽曲の一例

- ・ Let It Be (The Beatles)
- ・ Don't Stop Believin' (Journey)
- ・ Girls Like You (Maloon 5)
- ・ Let It Go (Idina Menzel)
- ・ チェリー (スピッツ)
- ・ 恋色に咲け (CHiCO with HoneyWorks)



クリシェ

フランス語で「常套句」という意味の定番アレンジ方法です。本来はコード進行の中にマイナースケールで順次下降していくラインを作ることなのですが、現代の日本ではメジャースケールで下降したり、半音ずつ下降するものもすべてクリシェと呼んでいます。さらには、順次上昇するライン

もクリシェと呼ぶこともあります。

バンドでは最低音をベースが弾いてコードネームをオンコードにしてベースラインをクリシェすることが定番です。また、コーラスやキーボードがストリングスの音色でトップノートをクリシェさせることもあります。



▲カノン進行をクリシェにした例。ベースラインがメジャースケールで順じ降りている

「王道」で盛り上がるろう!

王道進行

爽やかなポップソングから激しいロックナンバーまで多くの楽曲に使われ、今では「王道進行」とまで呼ばれているのが「4-5-3-6」です。Cメジャーキーでは「F-G-Em-Am」になります。

そのまま使っても盛り上がりますが、少しアレンジ

を加えている楽曲もあります。例えば、「F-G/F-Em7-Am7」のように2つ目のコードを「ペダルポイント」にしたり、「F-G/F-E7-Am」と3つ目のコードをメジャーコードにする場合もあります。これは、「セカンダリドミナント」という、少し高度な音楽的手法です。

4-5-3-6



▲逆循環コード「4-5-1-6」の3つ目のコードをトニックから代理コードの3度に変えたもの

使用楽曲の一例

- ・怪物 (YOASOBI)
- ・完全感覚 Dreamer (ONE OK ROCK)
- ・高嶺の花子さん (buck number)
- ・全力少年 (スキマスイッチ)
- ・ロビンソン (スピッツ)
- ・涙のキッス (サザンオールスターズ)
- ・ロマンスの神様 (広瀬香美)
- ・LOVE マシーン (モーニング娘。)
- ・夜に駆ける (YOASOBI)
- ・君はロックを聴かない (あいみょん)
- ・別の人の彼女になったよ (wacci)
- ・fragile / Every Little Thing

「4-5-6」進行

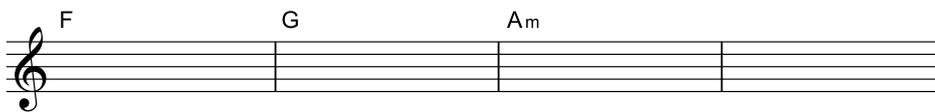
王道進行と同じ「4-5」で始まる「4-5-6」もよく使われる進行です。6度はトニック系のコードなので、安定しつつも高揚感のある切なさが胸に迫り、サビにはぴったりなコード進行です。Cキーのコードネームでは「F-G-Am」になります。

多くの場合は、6度を長く演奏して「4-5-6-6」のような感じで使われますが、トニックへ帰る「4-5-6-1 (F-G-Am-C)」や、3度に行く「4-5-6-3 (F-G-Am-Em)」も人気のコード

進行です。

また、逆に進む「6-5-4-〇 (Am-G-F-〇)」も多くの楽曲に登場します。どちらかというマイナーキーで「1-7-6-〇」となっている方が多いかもしれません。イギリスの伝説的ハードロックバンド、Led Zeppelinの「天国への階段」の後半部、X Japanの代表曲「紅」のサビ部分などは有名です。

4-5-6-〇、6-5-4-〇



▲予定調和の4度→5度と進行しながらトニック系の6度で切なくなる…。日本人が好むパターンです

使用楽曲の一例

- ・瞬間センチメンタル (SCANDAL)
- ・Rusty Nail (X JAPAN)
- ・Missing (ELLE GARDEN)
- ・True Love (藤井フミヤ)
- ・打上花火 (DAOKOと米津玄師)
- ・orion (米津玄師)



ペダルポイント

「ペダルポイント」とは、コード進行として和音を並べた時に、前の和音と同じ音をいくつか保続するアレンジのことです。ロックバンドではベースが最低音を同じ音で引き継いだり、ギターが開放弦などでトップノートで鳴らし続けるアレンジがよくあるパターンです。また、ストリングス系の音でキーボードがそれらを補う

こともあります。ベースのペダルの場合、コードネームは分数コードの表記になります。

ペダルを踏んで低音をずっと同じ音で鳴らしておきながらメロディを奏でることも多いパイプオルガンのイメージから名付けられたといわれています。



▲最低音（ベース）のペダルポイントの例。シンプルなコード進行でも不思議な響きになる

「個性派」の響きはぶれない

小室進行

「6-4-5-1」というコード進行は、1990年代に作曲家／キーボーディスト／音楽プロデューサーの小室哲哉がよく使用していたため、「小室コード」「小室進行」とも称されます。多くは2拍ずつコードが変わるパターンで使用され、日本人にはなぜかグッとくる響きがロック、ポップス、ボカロなど、現在でも様々なシーンで

使われています。

「1-4-5-1」という、主要三和音での基礎的な進行の最初のコードが「代理コード」の6度なので、もの悲しい中に安心感があります。最近ではシンガーソングライターの米津玄師がよく使うことから「米津進行」とも呼ばれて親しまれています。

6-4-5-1



▲ 1-6-4-5 を2つ目のコードから始めた逆循環コードでもあります。下段は2拍ずつ進行するパターン

使用楽曲の一例

- ・ Get Wild (TM NETWORK)
- ・ フライングゲット (AKB48)
- ・ 夏色 (ゆず)
- ・ 千本桜 (黒うさP)
- ・ 残酷な天使のテーゼ (高橋洋子)
- ・ 馬と鹿 (米津玄師)
- ・ アイネクライネ (米津玄師)
- ・ 花に亡霊 (ヨルシカ)
- ・ 白日 (King Gnu)
- ・ 炎 (LiSA)

ポップパンク進行②

「6-4-5-1」の小室進行のように、「6-4-2-3」や「6-4-3-6」など、6度→4度で始まるコード進行はいくつかあります。その中でも、激しくギターをかき鳴らして疾走するような楽曲に多いのが「6-4-1-5」進行です。Cメジャーキーでは「Am-F-C-G」になります。

ポップパンク進行①を3つ目のコードから始めたパターンともいえ、どこかクールでかっこ良く、それでいて胸にグッとくる感じが日本人が好むロックなサウンドに合っているのかもしれませんが。

6-4-1-5



▲マイナーコードの6度、ポップパンク進行①のような変終止的動き…などがロックなイメージ？

使用楽曲の一例

- ・ The Beginning (ONE OK ROCK)
- ・ 前前世 (RADWIMPS)
- ・ サムライハート (SPYAIR)
- ・ ワタリドリ ([Alexandros])
- ・ Catch The Moment (LiSA)
- ・ Africa (TOTO)



代理コード

「代理コード」とは、構成音がほとんど同じであればそのコード同士は互いに代用し合って構わないという音楽理論です。和音の響きが似ているため大きな変化はないけれども、前後の関係や雰囲気作りを考えたアレンジに役立ちます。

例えば、ドミソの3音で構成されているコードCは、ラドミのAm、ミソシのEmなどが代理コードとしてよく使われます。まずは、ドミナントコードの中で相互に入れ変えて使ってみましょう。

今回紹介しているコード進行たちも、複雑に見えるものもあるかもしれませんが、実は意外と代理コードを使った「少しの変化」による変形バージョンなだけの場合もあります。



▲コードCの代表的な代理コード

「オトナ」の雰囲気を漂わす

丸サ進行

椎名林檎の楽曲「丸の内サディスティック」で使われているコード進行で、日本では「丸サ進行」と呼ばれています。

元々はアメリカのサクソ奏者、グローヴァー・ワシントン・Jrの楽曲「Just The Two Of Us」のコード進行が原型になっていて、ダイアトニックコードの「4-3-6-5-1」から派生しています。この時の3度はメジャーコードになっていて「セカンドリードミナント」を作っていること、5度をマイナー、1度をセブンス

にして4度をトニックとした時のツーファイブワンとして部分転調しているように聴かせていることが特徴です。コードネームでは「F△7-E7-Am7-Gm7-C7」になり、メジャーキーとマイナーキーを交互に漂う感じがジャズ／フュージョン界で好まれました。

前半部を簡素化した「4-3-6-○（F-E-Am-○）」であれば、丸サ進行と呼ばれることが多く、現代の日本のポップスではなくてはならないコード進行です。

4-3（メジャー）-6-○



▲ 2つ目のコード、3度がメジャーになっていることに注意

使用楽曲の一例

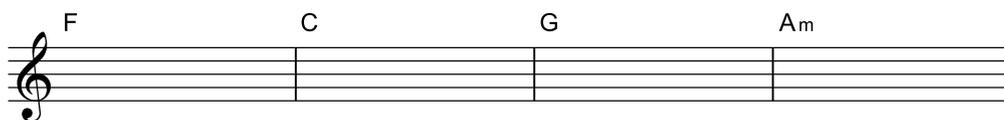
- ・丸の内サディスティック（椎名林檎）
- ・夜に駆ける（YOASOBI）
- ・つつみ込むように…（MISHA）
- ・I Love…（Official 髭男 dism）
- ・接吻（ORIGINAL LOVE）
- ・うっせえわ（Ado）
- ・愛を伝えたいだとか（あいみょん）

ポップパンク進行③

ポップパンク進行①を4つ目のコードから始めたものです。サブドミナントからトニックへ進行する「準強進行(変進行)」から始まり、再度トニックからドミナントへの準強進行になっています。

不安定な響きを醸し出してキュンとした切ない雰囲気や漂わせているのが特徴で、バラードやミドルテンポの哀愁ある楽曲に多く使われています。Cキーのコードネームでは「F-C-G-Am」です。

4-1-5-6



▲メジャーキーなのにどこか切なく哀愁漂う雰囲気の特徴

使用楽曲の一例

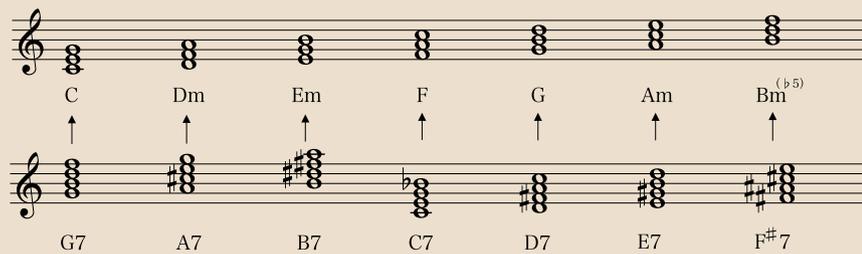
- ・ We Are Never Ever Getting Back Together (Taylor Swift)
- ・ アイネクライネ (米津玄師)
- ・ ただ君に晴れ (ヨルシカ)
- ・ ギブス (椎名林檎)
- ・ トリセツ (西野カナ)
- ・ Lemon (米津玄師)
- ・ ブルーベリーナイツ (マカロニえんぴつ)



セカンダリードミナント

ダイアトニックコードをトニックとみなした時の、それぞれのドミナントコードのことです。例えば、Cメジャーキーの6度Amをトニックと考えた時のドミナントコードはCメジャーキーにはないE(E7)です。一瞬不安にさせる効果がありながら転調を促す効果もあります。

使用曲では、Mr.Childrenの「Sign」、[Alexandros]の「Waitress, Waitress!」、東京事変の「群青日和」などが好例ですが、コブクロの「蕾」や松田聖子の「赤いスイートピー」のような簡易転調のためにも使われます。



▲ダイアトニックコードに対するセカンダリードミナント。左端はドミナントモーション